

オウクンチナン!

(クメール語で「ありがとうございます」)

たくさんの方のありがとうを 支援して下さる皆さんにお伝えください

わかちあいプロジェクトでは、96年の3月にスタッフを派遣し、「村の銀行」プロジェクトのようすを見せてもらいました。たくさんの方の努力の成果を見ることができ、これからも支援をつづけていくための励ましをいただきました。その過程での出会いをひとつ、みなさまにご紹介します。

おばあちゃんのノムを市場にとどける



マン・スイナンさんと娘のスイニエンさん。ロビエ一部アンドンスナイ村アンドンスナイ地区に住む。アンドンスナイ村の「村の銀行」のメンバーです。スイニエンさんのご主人のレイ・チエットさんはこの村の銀行の世話役の一人、スイナンさんは子供のころから両親を手伝ってノムという伝統菓子を作っています。彼女の夫は政府の公用車の運転手をしていましたが、ボル・ポ派が国を支配すると、スイナンさん一家は村のほかの人々とともに市内の別の村へ移住させられ、そこで農作業に従事させられました。そこで夫と子供3人は殺されてしまいました。今は、故郷に戻り、自分の狭い土地と、借りた土地とで農業をし、そのかたわらノムづくりをしています。以前は高利貸金をしながらだったのですが、「村の銀行」ができて、彼女とスイニエンさんがメンバーになり、1週間に300リエル(約12円)を積み上げています。そして、銀行からノムづくりの原料のために融資を受けています。現在アンドンスナイの「村の銀行」は41名のメンバーで構成され、ほとんどもは今までやっていいた仕事を続けています。ただ、スイニエンさんは初めて豚の肥育に挑戦し、2匹の子豚を飼っています。クメール正月(四月)にはお祝いの準備のために価格があがるので、そこが最良の売り時だそうです。



マン・スイナンさん(右から4人目)と娘さんの写真

ケットに出かけていき、縁台の一角に陣取って、たらいにならべたノムを売ります。ピニール役に入れ、がりががと削ったココナツパウダーを振りかけて、2つで100リエルで売ります。ぜんぶ売れば材料代をひいて3000リエルの収入になります。途中で娘さんと交代し、家にもどってまたノムを作り、孫に持っていかせていました。彼はクロマ(頭巾やショールにする布)を頭にいて、そのうしろにノムを乗せてマーケットに届けに行きました。午前中で売り切れれば幸い、そうでなくても10時ごろには帰ります。家族のご飯のしたく、4時ごろにすしのおんぴり休憩し、夕食の支度をしながらは食事をして寝る、という1日です。特に休日はありません。一日休むと収入がそれだけ減りますから。

*注 1円は約250リエル

スイナンさんは、毎日朝の3時に起きてノムを作るのにかかります。ノムは甘酸っぱい餅菓子のようなもので、カンボジアの人々にはなじみ深いお菓子です。朝6時ごろ歩いて数分のあるところにある国道5号線ぞいのマー

「わたしたちを応援して下さるかたがたに、たくさん、たくさん、ありがとうを申し上げます。機会がありましたら、村にお越しください。歓迎いたします。」

わかちあいプロジェクト募金

- カクマ難民救援
- カンボジア自立支援

3月の例会でエトリアについて語るペドロスさん



エトリアをご存じですか

エトリアは、30年の歴史ののち、国連の監視のもと住民投票で99.8%の支持を受けて1993年5月にエトピアから独立しました。アフリカで一番新しい国です。現在は憲法を制定する準備中で、アフリカでも小国ながら(人口35万人)最も将来が期待される国です。アブラハム・ペドロスさんは、独立前に日本に留学し名古屋大学大学院で博士号をとり、現在、大学の講師・研究所の研究員として、最先端の技術を取り組んでいます。

国の発展のために設立したいと、3月の例会に出席され、首都のアスマラで職業訓練の学校を開くことを提案されました。私たちの限られた能力からでは難事ではありませんが、ペドロスさんを中心に取組んでいきたいと考えています。わかちあいプロジェクトとして独自にアスマラに事務所を開くことが必要です。そのためにまずNGOとしてエトリア政府の承認を得なくてはなりません。さいいいペドロスさんがエトリア日本大使のためにボランティアとして奉仕していることもあり、大使とも相談しながら準備をすすめています。わかちあいプロジェクトが海外事務所を持つなんて、ちょっとやり過ぎかな。

牛の支給プロジェクト申込書



カンボジアのパートナーへのメッセージ

本校の2年2組が全校に呼びかけて、募金活動を行った結果集まったお金をお返しいたします。3頭分のお金がありますので、どうぞ立てて下さい。上の写真は、集まったお金を硬貨(1円玉、5円玉、10円玉)にかえて、板に張り付けて製作した「感謝」です。これを文化祭の時に展示して、こういって活動(カンボジアへの牛の援助)をしていることを多くの人に知ってもらえるようにしたいと考えています。本校ではこれからもこういった活動を続けていきたいと思っております。カンボジアのみなさん、厳しい生活が続くと思いますが、がんばって下さい。

心暖まらご協力ありがとうございます
皆さんの善徳がかけられ少くともいい世界をつくっていきましょう

お知らせ

◎わかちあいプロジェクト例会

8月を除く毎月、第3火曜日、午後7時より例会を開いています。また、毎週、火曜日には、何人かものが集まり仕事をしていますので、一度いらしてください。

◎カクマ難民キャンプのワークキャンプ参加募集

詳細は本文を参照下さい。

◎エトリア発展ボランティア(1年)募集

関係のある方、事務局までご連絡ください。

◎車の販売の店「くらそーつ」

2号店渋谷で開店!
治療については渋谷区宇田川町4-10ゴールデンビル11に2号店が、4月21日にオープンしました。わかちあいプロジェクトも協力し、私たちのコーヒー、紅茶も販売しています。(Tel.03-364-5458-1746)

LMV LINE(メーカ保証済車、世界旅行)の姉妹、第二次大戦後の海軍基地(現、人権)から日本人支援活動に、世界で初めて「エトピア」に設立し、現在、世界5ヶ国に展開中。世界でも、遠征機材にも協力して活動中。

発行所 わかちあいプロジェクト 130 東京都墨田区江東橋5-31 電話: 03-3634-7809 FAX: 03-3634-7808
編集者 松木 健 郵便振替口座: わかちあいプロジェクト 00130-7-762258 (募金用)
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)

1996年の募金目的と目標額

- カクマ難民救援 450万円
- 小児病棟の建設費と備品費、ワークキャンプ経費用・吉野などのコンテナ費用
- 自立支援 450万円
- カンボジア帰還難民のための牛の支給プロジェクト・「村の銀行」の資金として
- その他

募金の送金先

郵便振替口座
わかちあいプロジェクト 募金
00130-7-762258